

南半球便り（その 91）：春爛漫

9 月 27 日

長く冷たく湿った冬が終わり、キャンベラは春爛漫です。待ちわびた季節の到来を祝し、一大レセプションを公邸で開催し、大いに盛り上がりました。今日は、そのご報告です。



大使公邸で開催された「春のレセプション」

1. 「春のレセプション」

世界各国にある日本の在外公館では、必ず天皇誕生日にはレセプションを行います。また、自衛隊記念日にもレセプションや夕食会を行う公館も少なくありません。

在豪州日本大使館では、こうした恒例の行事に加え、昨年、日本とゆかりの深い豪州人を一堂に集めてレセプションを開催。好評を博しました。今回は、キャンベラの日本大使公邸の立派な日本庭園と、その庭に咲き誇る桜を活用しない手はないと考え、「春のレセプション」と称して日豪関係に携わる方々を広くお招きして、ガーデン・パーティーを企画しました。

2. 基本は人的関係

外交の現場に 40 年近くいて深く悟ったことは、国と国の関係も、結局は人と人との関係から築きあげられるという単純な公理です。

日豪関係も、まさに同じ。「知日派」を大切にしなければなりません。

そこで、東京三田のオーストラリア大使館での勤務経験を有する豪州政府関係者、JET プログラム参加者、元国費外国人留学生、世界青年の船参加者、豪州政府奨学金での日本留学経験者、豪州国立大学や首都特別行政区の日本語教師など、日本と縁の深いオーギーに広くお声がけして、春の一夜に懇親を深めることとしたのです。



ゲスト・スピーカーのアルフ・モーフォレッジ氏（左）、アナ・パーカー氏（右）



「日本さくらの女王」油原さくらさんのビデオ・メッセージ

出席者は総勢 200 名を超える大盛況。宴は賑わいを増し、なんと 5 時間強にわたり、桜を愛でながらの歓談が続きました。



3. 料理の鉄人登場！

今回のレセプションでは、日本から、私と知己の特別ゲスト二人に来ていただきました。その一人が、東急ホテルズ専務執行役員兼総料理長の福田順彦（ふくだのぶひこ）氏。日本のフレンチ料理界のドンであり、大使公邸の小形料理人の師匠にあたる方です。



大使公邸の小形料理人（左）と福田順彦総料理長（右）

忙しい日程をやり繰りして、渋谷のセルリアンタワー東急ホテルから駆けつけていただきました。シェフのcock coatとエスコフィエ協会のエシヤルプ（懸章）を纏い、オーラがビンビンに漲る雄姿。西オーストラリア州のパース近郊のヤンチェップ・ファームの牛肉を振る舞っていただいたところ、やんや・やんやの太行列。瞬く間に売り切れてしまいました。



ヤンチェップ・ファームの牛肉



ベーコンとポテトのキッシュ



揚げたての鶏から揚げ



焼きたての餃子



米粉クレープの提供



抹茶風味のバニラ・スライス

無論、ホストの私は、焼き上がるステーキの香りだけ満喫しました。楽しみは、次回にとっておくこととしました。

4. 世界に誇るマジシャン登場！

もう一人の特別ゲストは、マジシャンの前田知洋氏。長年にわたって日本のテレビ番組を席卷し、お茶の間で大人気を博してきたマジック界の貴公子。日本から駆けつけていただきました。



前田知洋氏によるマジック・ショー

美しい指先から繰り広げられる数々の魔術。特に、四つにちぎったトランプカードが観客の掌の中でつながるマジック、観客の指先から抜き取った指輪が前田さんのズボンの中のキーケースにつながれているマジックなど、次々に歓声があがる素晴らしい匠のパフォーマンス。観客の誰もが酔いしれました。

世界的に有名なマジシャンの折角の来訪の機会を捉え、翌日は菜の花が咲き乱れるカウラに移動。名にし負う日本庭園での「桜祭り」でも、実演が行われました。青空の下、芝生の上で、豪州の老若男女の前で繰り広げられたマジック。鮮烈な印象を残しました。

【カウラでの私のスピーチは、[こちら](#)でご覧下さい。】



桜祭りが開催されたカウラ日本庭園での前田知洋氏によるマジック・ショー

5. エンターテインメントの波

キャンベラの公邸で続々と繰り上げられたエンターテインメントは、上記にとどまりません。

シドニーでのジャパナルーで観衆を魅了した、日本の着物とアボリジナルデザインとのコラボによる着物ショー（WABORI パフォーマンス）、只野徳子女史による三味線のデモ・ワークショップ、裏千家による茶道体験、日豪「ダブル」の歌手ケイ・ヒューソンさんによる日豪国歌独唱・オリビア・ニュートン＝ジョン・竹内まりやなどのオールディーズ歌唱など。次から次へと押し寄せる波のように、出し物が続きました。



WABORI パフォーマンス



只野徳子女史による三味線のデモ・ワークショップ



裏千家による茶道体験



歌手ケイ・ヒューソンさんの歌唱

日本を知るオーギーの集まりだけに、日本での生活体験を懐かしく回顧するとともに、日本の誇るソフトパワーを改めて堪能していただけたのではないのでしょうか。

6. 開く門戸

レセプションのタイミングは、「どんピシャ」でした。というのも、前日に岸田総理が日本への旅行制限を解除する旨の発表をされたからです。

私のスピーチでそこに言及したところ、一同から大きな歓声があがりました。【私のスピーチは[こちら](#)でご覧いただけます。】

日本の紅葉、冬のスキーシーズンに間に合う形で門戸が再び開かれたのです。コロナ前には年間約 61 万人まで急増してきた豪州からの観光客。一回の旅行当たり、一人 24 万円は落としていくという世界最高の上客です（笑）。



京都・清水寺の紅葉



白馬の大雪原

東京、京都、大阪のみならず、中山道、ニセコ、白馬、野沢温泉、志賀高原など各地にオーギーが戻る日々が待ち焦がれます。日本の風物にふれた彼らは、必ずや「WOW」を連発してくれることでしょう。

7. 「散る桜 残る桜も 散る桜」

前年の花見から一年が経ち、再び巡ってきたこの時期に必ず思い浮かぶのが、良寛和尚の名句です。

いずれ、終わりが来るのが人生。如何にして、与えられた生を全うし、充実したものとしていくか。



大使公邸の桜

風に舞い、公邸の池に舞い落ちていく桜花を愛でながら、豪州での勤務を通じて日豪関係を更なる高みに引き上げるべく微力を尽くすことを誓いました。



山上信吾